

我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業のうち漁場形成・漁況予測事業

定置網漁獲統計調査

久野 正博・岡田 誠

目 的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方 法

三重県内の大型定置網漁場のうち、相差・片田・和具・阿曾・贅浦・方座・錦・長島・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の15漁場を対象に平成27(2015)定置年度(平成27(2015)年10月～平成28(2016)年9月)の魚種別漁獲量を調査した。

結 果

詳細については平成27定置年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成27(2015)定置年度の総漁獲量は6,654トンで前年度の92%、過去10年平均の113%であった。魚種別ではブリ(6kg以上の銘柄)が1,410トンで全魚種の21.2%を占めた。次いでサバが1,275トン、ワラサ(2～6kgの銘柄)1,191トン、マアジ478トン、シイラ310トン、マイワシ256トンの漁獲があり、以上6位までは前年度と同じ順位であった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、ウスバハギ(前年度比9.9倍)、カタクチイワシ(同4.0倍)、タチウオ(同2.8倍)、ウルメイワシ(同2.1倍)、メジナ(同2.1倍)、その他アジ類(同1.8倍)、ワラサ(2～6kgの銘柄)(同1.7倍)、イサキ(同1.5倍)、サバ(同1.4倍)等であった。逆に減少した魚種は、ヒラマサ(前年度比26%)、イナダ(0.5～2kgの銘柄)(同28%)、アオリイカ(同39%)、フグ類(同40%)、その他イカ類(同54%)、ブリ(6kg以上の銘柄)(同56%)、マルアジ(同65%)、ムツ(同68%)、マアジ(同72%)、シイラ(同74%)、サワラ(同77%)、カンパチ(同80%)、スルメイカ(同82%)、ヒラメ(同87%)、マグロ類(同87%)、イシダイ(同87%)、カワハギ(同89%)等であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は195,993尾(前年度比56.8%)で、特異的な豊漁であった前年度を大きく下回ったが、過去50年で5番目に多い漁獲尾数であった。漁場別の漁獲尾数では片田の45,511尾が最も多く、次いで九鬼2号の27,914尾、九鬼1号の20,816尾、島勝の

表1. 全漁場魚種別漁獲量

平成27(2015)年10月～平成28(2016)年9月			
順位	魚種名	漁獲量(kg)	相対度数(%)
1	ブリ	1,409,750	21.187
2	サバ	1,275,453	19.169
3	ワラサ	1,191,397	17.906
4	マアジ	478,060	7.185
5	シイラ	309,857	4.657
6	マイワシ	256,234	3.851
7	カタクチイワシ	254,448	3.824
8	イサキ	161,296	2.424
9	マルソウダ	148,716	2.235
10	スルメイカ	95,512	1.435
11	カマス	77,046	1.158
12	サワラ	62,932	0.946
13	イナダ	59,388	0.893
14	その他アジ類	57,300	0.861
15	マダイ	54,089	0.813
16	ヒラソウダ	51,624	0.776
17	タチウオ	46,930	0.705
18	ウルメイワシ	46,566	0.700
19	ウスバハギ	43,718	0.657
20	ムツ	36,882	0.554
21	メジナ	31,775	0.478
22	イシダイ	30,877	0.464
23	その他イカ類	25,042	0.376
24	マルアジ	21,742	0.327
25	ヒラメ	17,690	0.266
26	マグロ類	16,890	0.254
27	フグ類	16,388	0.246
28	カンパチ	14,776	0.222
29	ヒラマサ	12,291	0.185
30	カワハギ	12,050	0.181
31	イワシ類	11,697	0.176
32	アオリイカ	10,707	0.161
33	スズキ	7,880	0.118
34	ヨコワ	7,503	0.113
35	トビウオ	7,247	0.109
36	ハガツオ	5,295	0.080
37	カジキ類	4,676	0.070
38	ボラ	3,768	0.057
39	ウマヅラハギ	1,882	0.028
40	シマアジ	369	0.006
41	ヤリイカ	337	0.005
42	その他雑魚	275,638	4.143
	合 計	6,653,716	100.000

20,463尾、錦の19,502尾、阿田和2号の14,188尾、早田の11,272尾であった。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられた。3月中旬から4月中旬が最盛期で、4月だけで全体の53%、3月～4月では全体の94%が漁獲された。2月と5月の漁獲尾数は、ともに過去5年で最も少なかった。全漁場合計の1日の最高漁獲尾数は4月6日の18,841尾、次いで4月10日の17,044尾、3月23日の12,102尾、4月15日の11,577尾であった。他に4月11日と4月1日に1万尾以上の漁獲があった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は九鬼2号の9,781尾（4月1日）、次いで片田の8,138尾（4月11日）、同じく片田の5,119尾（4月6日）、島勝の5,110尾（3月23日）、片田の4,431尾（4月21日）、九鬼1号の4,033尾（4月6日）、錦の3,804尾（4月6日）であった。

ワラサ（2～6kg未満）の全漁獲尾数は230,437尾（前年度比1.48倍）で、過去50年では平成18（2006）定置年度に次ぐ好漁であった。ワラサの入網は4月～5月に集中し、4月だけで全体の54%、5月に全体の34%の漁獲があり、3月～5月では全体の92%の漁獲があった。漁場別の漁獲尾数は片田の46,268尾が最も多く、次いで島勝の44,592尾、阿田和2号の24,684尾、九鬼1号の23,850尾、梶賀の20,235尾、錦の19,838尾であった。全漁場合計の1日の最高漁獲尾数は、5月5日の20,390尾であった。次いで4月26日の18,363尾、4月25日の17,524尾、4月24日の15,672尾、4月29日の12,414尾であった。他に5月1日と4月27日に1万尾以上の漁獲があった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は、島勝

の8,036尾（4月29日）、次いで九鬼1号の6,926尾（4月22日）、島勝の6,818尾（5月1日）、同じく島勝の6,451尾（5月5日）、片田の6,387尾（4月26日）、同じく片田の6,230尾（4月25日）、5,932尾（4月24日）であった。

イナダ（0.5～2kg）の全漁獲尾数は69,904尾（前年度比38.2%）、当歳魚が主体となる8月～9月を入れない集計期間では18,128尾（前年度比13.2%）で、近年では平成16（2004）定置年度に次ぐ低調な漁獲尾数であった。漁場別の漁獲尾数では贅の44,263尾が最高で、次いで島勝の12,271尾であった。1漁場における1日の最高漁獲尾数は、贅の19,470尾（9月4日）、次いで同じく贅の8,805尾（9月5日）、7,401尾（9月1日）、3,628尾（9月14日）、島勝の2,509尾（8月24日）、同じく島勝の2,138尾（9月14日）であった。

今漁期の特徴的な漁獲として、サワラが62.9トンの漁獲があり、前年度と3年前には及ばなかったものの、昭和46（1971）定置年度以降で3番目の漁獲量であった。ヨコワが7.5トン（極めて低調であった前年度の10倍、過去10年平均の114%）漁獲され、そのうち78%にあたる5.8トンが8月に集中して漁獲された。

関連報文

三重県（2017）：平成27定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。